

氏名	浅 雄 保 宏		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2680 号		
学位授与の日付	平成 5 年 12 月 31 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	エンドトキシン血症家兎の好中球化学発光の変動		
論文審査委員	教授 小熊 恵二	教授 木村 郁郎	教授 岡田 茂

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

好中球の貪食殺菌能を調べる方法として増感剤を用いた化学発光 (CL) 法がある。好中球 CL は細菌感染によって増大するが、重症感染症になると低下する場合がある。重症の細菌感染症における好中球 CL の低下の原因を探るために、家兎に低濃度 ($0.7 \mu\text{g} \cdot \text{kg}^{-1}$: II 群) あるいは高濃度エンドトキシン ($70 \mu\text{g} \cdot \text{kg}^{-1}$: III 群) を一回静注し、好中球の貪食殺菌能を CL 法によって経時的に測定した。

好中球を用いた CL ピーク値は II 群では 180 分、360 分で有意の上昇が認められ、III 群では 30 分、60 分、180 分で有意の低下が認められた。好中球とプール血漿を組み合わせ CL を測定したところ、類似した結果が得られたため、好中球側に原因があることが示唆された。全血を用いた CL ピーク値と白血球数とは類似の変化を示し、30 分で有意に低下し、60 分で最低を示した後に回復した。

以上より、軽度のエンドトキシン血症時には好中球自体の貪食殺菌能が亢進する。しかし重篤なエンドトキシン血症時には好中球数減少に伴う生体側の殺菌能の低下のほかに、好中球自体の貪食殺菌能の抑制が起こることが示された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は軽度および重症のエンドトキシン血症時における好中球の貪食殺菌能の程度を家兎を用いて調べ、軽度の時には好中球機能は亢進するが、重症の時には抑制がおこることを認めた価値ある業績である。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。